

# Newsletter

奈良教育大学 教職大学院 2011 vol.3(9)

2011年2月28日 発行  
奈良教育大学 大学院  
教育学研究科 教職開発専攻  
〒630-8528 奈良市高畑町  
TEL&FAX 0742-27-9354  
<http://www.nara-edu.ac.jp>

発行 奈良教育大学 教職大学院広報係

## 目次

1. 奈良教育大学教職大学院に期待するもの
2. 学位研究報告のテーマ紹介
3. 教職大学院の授業紹介
4. 韓国の教職員の方々の本学教職大学院訪問
5. 案内

## 1 奈良教育大学 教職大学院に期待するもの

奈良市教育長 中室 雄俊



平成20年3月に告示された新学習指導要領も、いよいよ小学校から全面实施となります。新しい教育の真価が問われる時が来たのです。学校現場では、「生きる力」の育成や知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランス、豊かな心や健やかな体の育成といった学習指導要領改訂の基本方針をいかに実現していくかが問われています。

奈良市では平成21年5月に、国の教育の流れを受け、向こう10年間に本市のめざすべき教育の姿を示した「奈良市教育ビジョン」を策定しました。教育ビジョンの中では、教育の不易の目標である「知」「徳」「体」の充実を図るとともに、奈良らしい教育の推進や地域との協働・連携に重点を置いた教育の推進を基本目標として掲げており、その実現のために、現在具体的な施策を実施しています。しかし、何より大切なことは、教員一人一人の力量が向上することです。どんなに素晴らしい目標も、どんなに効果的な施策であっても、「教育とは人が行うものである」という原則は変わりません。ベテラン教員の大量退職時代を迎え、年々若手教員が増加しています。経験から生み出されるカンやコツといった暗黙知の継承とともに時代のニーズに対応した教育方法等、一人一人の教員に期待するものは、ますます増加してきています。

このような時代に、「教職に対する高い使命感と専門性・実践力を兼ね備えた教員の養成」という目標のもと、奈良教育大学に教職大学院が開設され、3年が過ぎました。本市におきましては、連携協力校を中心として学校と大学がよきパートナーとなり、共に学び、共に歩んでまいりました。既に第1期生は現場の中で活躍をしておられ、本市でも3名の修了生がそれぞれの学校の中核として活躍されています。

学び続ける姿こそが求められる教員像であり、その学ぶ場を提供していただいていることと合わせ、奈良教育大学教職大学院には、本市の子どもたちの学力向上や小中一貫教育等の推進にもご尽力いただいておりますことに、深く感謝いたします。

今後もよきパートナーとして連携し、本市をはじめ、すべての子どもたちの教育の推進に寄与されることを心から期待しています。

学位研究報告書というのは、教職大学院を修了するにあたり、各院生が教職大学院での学習や研究の成果についてまとめ、提出するものです。それぞれの院生がどのような研究テーマをもって学びを深めたのかを紹介します。

	テ ー マ	名 前
現 職 教 員	学校教育へのピア・サポートの導入と展開 —個別支援を必要とする生徒に対するサポートの高まりを目指して—	上明代 千恵子 (09年度入学) (五條市立五條西中学校)
	文章表現力の育成に関する実践的研究 —意見文指導の系統性に着目して—	岡島 眞寿美 (09年度入学) (葛城市立磐城小学校)
	交流分析(TA)とコンピテンシー分析による 教員の育成について	後藤 佳代 (08年度入学/3年コース) (屋久島おおぞら高等学校)
	小学校外国語活動充実に向けたカリキュラム開発と授業実践 —地域の特色や児童の実態を生かして—	土江 和世 (09年度入学) (川西町立川西小学校)
	「説明する力」の育成を目指した実践的研究 —文章表現指導を通して—	原井 葉子 (09年度入学) (平群町立平群東小学校)
	体験的な授業における生徒の成長 —高等学校における教育コースの活動を通して—	星合 智賀子 (09年度入学) (奈良県立平城高等学校)
ス ト レ ー ト マ ス タ ー	定着に関わる板書・ノート指導についての研究 —授業力向上を目指して—	犬伏 亜沙香 (09年度入学)
	子どもたちに問いをもたせるための実践力向上に関する研究 —小学校理科の授業実践を通じて—	岡本 健太朗 (08年度入学/3年コース)
	児童が主体となる学習のための教師の手立てに関する研究 —グループによる「練り合い」を取り入れた実践を中心として—	奥山 登康 (09年度入学)
	授業実践力向上に向けた自己省察能力の獲得過程に関する研究 —算数の「授業を想定した教材の知識」との関係を中心に—	甲木 直人 (08年度入学/3年コース)
	子どもが主体的に学習する保健体育科授業の考察 —課題を解決するための思考力・判断力・表現力の育成に着目して—	澤田 優樹 (09年度入学)
	生徒の理解を促す理科教材の考察	九十九 慎吾 (09年度入学)
	自らの学びの軌跡に基づく授業実践力向上に関する研究 —小学校国語及び算数の授業実践での取り組みを中心に—	日暮 千早 (08年度入学/3年コース)
	現代社会との関連を図る中学校歴史的分野の教材開発 —手作り教材「まめちしき たくさん みになる 社会科通信」を用いた授業実践—	吉田 真実 (09年度入学)

## (1) 学級・学校経営実践論

(教師の感性を磨き、学級経営・学校経営を)

特任講師 山岡 荘平



教員免許更新制度が始まっています。運転免許同様に一定の期間が経過した時点でその免許を行使するのに十分な能力を再確認するための研修が必要となった

のです。これも時代の流れ社会の変化への対応だと言えるでしょう。子どもの学力低下が問題になり、校内での子どものトラブルへの細やかな対応が求められ、椅子に座るといふ基本姿勢から指導しなければならない新入生が増えているなど、課題多いこの時代に敢えて教師を志し、或いはより力量を高めようとする教職大学院生には、敬意を表したいと思います。

教育困難の時だと言われるのは、子ども達を取り巻く社会の環境が大きく様変わりした事が影響していると思われませんが、私はそんなに悲観していません。環境が変わり生活が変わってきても、子ども一人一人の心は昔とそんなに変わっていないと思っています。純粹だし、好奇心があり、友達を求め、愉快地に遊びたいと思っているはず。学校はその様な子ども達であふれています。教師はその子ども達に生きる力をどれだけしっかりと付けていくかが求められているのです。

私の授業では子ども達を信じ、子ども達が生き活きと活動できる学習の場を作り出すためにどのような視点をもって取り組むのがよいか、地域や保護者の協力を得るためにどのような配慮が必要なのかを、学校の1年間の営みを様々



な具体的な活動の場面を想定しながら気づき合い、新しい発見をし合う授業を行っています。

## (2) 学校危機管理論

(学校危機の諸相に対する法的側面からの対応スキルの検討)

非常勤講師 (弁護士) 以呂免 義雄



学校危機管理論という講座名で、授業を行なって3年になります。学校危機状況としては、学校事故(校内、校外、物的・人的に亘って)、保護者等によるクレーム、いじめ、非行等が指摘できますところ、当講座の目的は、受講生にこれら学校危機状況に対し、法的対処方法としての法的素養を身に付けてもらうことで、教職現場における危機状況の対応スタッフとしての役割を果たして貰いたいというところにあります。また、法教育の担い手としての素養の開発にも目を向けています。

授業形態としては、学校事故については責任関係の法的判断における要件(過失における「結果発生の予見可能性」の要件の理解が主な内容)についての解説、その内容理解を踏まえて、具体的裁判事案に当たっての分析検討です。受講生に原告側と被告側に分かれてもらい、議論を戦わせる形態の下、その結果、判決書に見える争点整理に似た形で、見事に分析内容が顕われて来た次第です。次に、保護者によるクレームについては、シナリオに基づき、受講生にロールプレイングを行なってもらった疑似体験授業です。迫真的なやり取りの下、力動関係の理解と対処理解が進みました。また、法教育に当たっては、例えば、模擬裁判シナリオに基づき、「無罪推定」すなわち「検察官に挙証責任が存する」ことの意味の理解や「合理的な疑いを差



し挟まない程度の証明」の理解に努め、ひいて、法教育の担い手に向けての素養の開発を実践しています。

## 4 韓国の教職員の方々の本学教職大学院訪問

財団法人、ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が実施する、「韓国教職員招聘プログラム」に参加された韓国の初等・中等教育に係る教職員の方々約30名が、1月17日午後、教職大学院を訪問されました。

目的は、以下の4つでした。

- (1) 日本の教育制度及びその現状を学ぶこと
- (2) 学校等での意見交換を通じて、日韓教職員間における交流に寄与すること
- (3) 日本の文化全般に対する理解を深めること
- (4) 日韓両国の相互理解と友好を促進すること

本学教職大学院では、施設、設備の見学及び教職大学院の概要説明等の時間が設けられていました。

院生室を見学された時には、院生に対して質問をされる場面も見られました。「修士課程の大学院と教職大学院の違いは何ですか」、「現職の先生が、現職の身分のまま教職大学院へ来ておられるわけですが、良かったことは何ですか」等の問いかけに対し、院生達は少々緊張しながらも、ここで学ぶ喜びや意義について、しっかりと自分の思いを語っていました。

アジアの隣国である韓国と日本の教職員がお互いに相互理解を深め、今後、一層協力していくことの大切さを実感する良い機会になりました。



## 5 案内

### 奈良教育大学 教職大学院 入学試験情報

平成23年度 奈良教育大学 教職大学院 学生募集 3次募集

出願期間 : 平成23年2月28日(月)～平成23年3月10日(木) 必着

学力検査日 : 平成23年3月20日(日)

合格発表日 : 平成23年3月23日(水)

募集人員 : 若干名

問い合わせ先 〒630-8528 奈良市高畑町  
奈良教育大学 入試課  
Tel 0742-27-9126  
E-mail [nyuusi@nara-edu.ac.jp](mailto:nyuusi@nara-edu.ac.jp)  
ホームページ <http://www.nara-edu.ac.jp/>

☆あとがき 本号では、奈良市教育委員会の中室教育長よりことばをいただきました。本学教職大学院への力強い支援メッセージであると受け止めています。その中で、現職教員院生の第1期生として本学教職大学院を修了した3名の先生方が、現在、市内の学校でその中核として活躍中であると書いていただいています。「理論と実践の往還」と呼んでいます。大学と学校現場(小・中・高)の連携は、これから益々必要不可欠なものになるであろうと思われま。本県及び全国各地の学校現場で奮闘中の修了1期生の皆さんが、今後、本学と学校現場との間の、より太いパイプ役になってくれることを大いに期待しています。(文責 小谷)